令和８年3月

# 令和7年度 府中市立日新小学校
# 学校経営報告

府中市立日新小学校
校　長　　山田 隼土

## １ 今年度の教育目標と目指す学校像

子供・家庭・地域社会の願いを受け止め、ふるさと府中を愛し、世界にはばたく府中っ子として、
日々新たに伸びようとする、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子供を育成する。
**◎かしこく(問題解決力)　〇やさしく(人間関係形成力)　〇たくましく(自己理解・実践力)**

日新を誇り 誇れる日新をつくる児童
～4つの学びを重視した『日新エージェンシー』（生活科と日新アクティブの接続）～

高め合い 学び続ける教職員
～PDCAサイクルによる授業研究～

地域とともにある学校
～連携・協力による児童の育成～

## ２ 今年度の取組と自己評価（重点目標への取組と自己評価）

### （1）「日新を誇り 誇れる日新をつくる児童」を育む学校

①豊かな心と基本的な生活習慣の確立

**あ**いさつ（礼儀）「あいさつで始まり、終わる」授業　「～さん」付けの呼称
**あ**つまり（自律）　定時の登校「チャイムで始まり、終わる」授業　「めあてによる児童の振り返り」のある授業
**あ**としまつ（共生）「きれいな、教室・黒板・机」　「考えを聞き合い、話し合う」互いに高め合う授業

【取組】・全校朝会での講話（良いところの意識付け）
・代表員会主催の「あいさつ運動」
・「日新三つの㋐」を意識した日常的な学習・生活指導

【児童アンケートの結果】(肯定的評価の割合)
・あいさつ→88%　・あつまり→90%　・あとしまつ→81%

「日新三つの㋐」は日新小学校の伝統である。全校朝会をはじめ、代表委員会主催の「あいさつ運動」などを通し、折に触れ指導した結果、児童も意識をして学校生活を送ることができている。

②基礎的・基本的な学習内容、言語に関する力の定着【重点項目】

【取組】・4つの学び（発見すること・対話すること・決定すること・表現すること）を大切にした授業展開
・習熟度別指導や個に応じた指導方法の工夫
・e ライブラリー等の ICT 機器を活用した学習
・「世界とつながる英語 Enjoy Week」を活用した外国語におけるコミュニケーション能力の素地作り
・「家庭学習のすすめ」の作成、家庭教育懇談会の開催

【保護者アンケートの結果】(肯定的評価の割合)
・学校は学習の基礎・基本が身に付くよう指導に努めているか。→88%

【児童アンケートの結果】(肯定的評価の割合)
・「授業が分かりやすく計算や言葉の力が付いたか→88%
・「10 分×学年」の家庭学習ができたか。→62%

令和７年度全国学力・学習状況調査の結果では、国語、算数、理科において平均正答率が東京都より 10ポイントほど低い結果となった。4 月に行われた調査のため、年度末での結果ではないが、基礎的・基本的な学習内容の定着は課題である。また、学年に応じた家庭学習の習慣については、長期期間中の「家庭学習のすすめ」を独自に作成したり、家庭教育懇談会を開催したりしたが、6割ほどの定着に留まっており、まだ身に付いていないことが課題である。

③豊かな知性と感性を伸ばす読書活動【重点項目】

【取組】・図書ボランティアによる朝の読み聞かせを26回実施

・前期、後期の読書旬間では、図書委員会の考えた企画を中心に読書活動を展開

・空き時間等での電子図書館の積極的な活用

・読書量の目標（年間1・2 年生 100 冊以上、3 年生以上は学年×1000ページ）を達成した児童を読書マイスターとして認定→3月2日現在達成率は68%

【児童アンケートの結果】（肯定的評価の割合）

・読書マスターを目指して本を読んでいるか。→72%

児童が本に親しめるように、読み聞かせを行ったり、楽しい企画を考えたりしているが、読書マスターを目指して取り組んでいる児童の割合が年々低下している。読書は心を豊かにするとともに、知識や語彙を増やしたり、心情を想像したりすることで、学力の向上にもつながっていく。より一層読書活動の充実を図る取り組みが必要である。

④4つの学びを重視した『日新エージェンシー』の推進

【取組】・「地域・まちづくり」「歴史・文化」「自然・環境」「ボランティアマインド」「東京 2025 デフリンピックに関連付けた障害者理解」等を取り上げたテーマ設定

・本校ならではの地域教材を活かした学習内容

【保護者アンケートの結果】（肯定的評価の割合）

・学校は、生活科や日新アクティブ、学校や地域ならではの特色を生かした取組をしているか。→96%

【児童アンケートの結果】（肯定的評価の割合）

・生活科や日新アクティブの授業が楽しいか。→90%

保護者、児童ともにアンケートの結果は高評価である。本校ならではの地域教材を生かした学習内容が、児童の学びにとって有効であることが分かる。また、「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」の学びの視点を明確にした課題解決学習が主体的な学びにつながり、学習意欲につながっていると考えられる。今後も継続して取り組んでいきたい。

## （2）高め合い、学び続ける教職員のいる学校

【取組】・「自分の考えを表現し、学び合う児童の育成」を研究主題に設定し、4 本の研究授業を実施

・低学年、中学年、高学年のチームに分かれた島研究を 7 回実施

・主任教諭以上を講師とした OJT 研修を9回実施

・いじめ、不登校に適切に対応するための研修を4回実施

・特別支援教室「ひばり」の拠点校を生かした特別支援に関する研修を 2 回実施

・特別支援コーディネーターを柱とした組織的な校内委員会を月2回程度開催

【保護者アンケートの結果】（肯定的評価の割合）

・学校は児童の願いや相談に応える努力をしているか。→87%

【児童アンケートの結果】（肯定的評価の割合）

・困ったときに相談する人がいるか→87%

保護者、児童ともにアンケートの結果は高評価である。「教育における最大の教育環境は教師自身である。」との言葉の通り、教員一人一人が日常的に学びのアップデートを行い、授業改善に努めていくことが、子供たちの成長のためには必要である。また、児童の特性を理解し、必要な支援を行うには専門的な知識や対応力が必要となる。予測が困難で、変化が激しい時代だからこそ、高め合い、学び続ける教職員の集団であり続けたい。

### (3) 地域とともにある学校

【取組】 1年生：第2府中保育園・ひばり幼稚園との交流学習

2年生：町探検でのインタビュー（コメリ府中日新店、マクドナルド、ワークマンプラス、第2府中保育園、銀シャリ、フローレンスケア（老人ホーム）、共進倉庫、セブンイレブン、ファミリーマート どんど焼き見学、四谷文化センター・四谷体育館見学

3年生：西友見学、小松菜栽培（ゲストティーチャー）

4年生：元保護者による手話授業、お囃子交流、フローレンスケア（老人ホーム）との交流

5年生：水田プロジェクト（田植え、収穫、餅つき）、東京女子体育大学との連携授業

6年生：菊作り（土つくり、挿し芽、輪台掛け）→大國魂神社への奉納、大人コメンテーター（キャリア教育）

・毎日学校ブログを更新し、保護者・地域に学校での児童の様子を発信。（700を超える記事を発信）

・スクール・コミュニティー協議会を 5 回実施

【保護者アンケートの結果】（肯定的評価の割合）

・学校は、教育目標や教育方針を分かりやすく伝え、教育活動を公開しようとしているか。→95%

・学校は、生活科や日新アクティブ、学校や地域ならではの特色を生かした取組をしているか。→96%

保護者、児童ともにアンケートの結果は高評価である。4 名の地域コーディネーターが学校と地域を繋ぐ役割を担ってくださっているお陰で、地域とのつながりを大切にした取組ができている。日新小学校の伝統を大切にし、今後も地域とともにある学校を意識して教育活動を行っていきたい。

## 3 次年度以降の課題と対応策

### (1) 新タブレット端末を活用した学び

全学年、4月からタブレット端末が新しくなる。それに伴い、デジタル教材として「ベネッセ『ミライシード』」の利用が開始される。ドリルパーク、テストパークでは、従来の紙面教材（ドリルやワークテスト、資料集）の役割も担えることから、学年の発達段階に応じてデジタル教材を使った学び方に移行する。基礎学力の向上のための効果的な活用方法について情報を共有しながらデジタル教材を利用していく。

また、Canva が導入されて2年目となる。府中市が学習場面で大切している4つの学び（発見すること、対話すること、決定すること、表現すること）において活用できることも分かってきた。次年度も積極的に Canva を活用した授業実践に取り組んでいく。

### (2) 家庭学習の充実

「10分×学年」の家庭学習ができている児童の割合が62%と低い状態である。宿題に関しては個人の能力によってかかる時間が違うため、一律に量を増やすということではなく、自主的に学習に取り組める児童を増やせるように家庭と連携しながら進めていく。（自主学習に取り組める児童を増やす。）

また、「ベネッセ『ミライシード』」は家庭学習にも向いている。デジタル教材の利用方法を保護者に周知し、家庭でも活用できるようにしていく。

### (3) 読書活動の充実

読書マスターを目指して取り組んでいる児童の割合が年々低下している現状を受け、週1時間、8時30分から8時40分までの朝の時間を「読書の時間」に設定し、年間を通して本に親しむ時間を確保して読書活動を充実させるようにする。また、興味・関心のある本をいつでも読めるように、電子図書館の活用についても推進していく。

### (4) 校内研究の充実

子供たちの学びの充実にとって教職員の研修は欠かせない。教員一人一人が日常的に学びのアップデートを行い、授業改善ができるよう、校内全体の研究主題を「自分の考えを表現し、学び合う児童の育成」とした上で、教員一人一人が個別の研究テーマを設定し、日々の授業改善に取り組むようにする。

また、互いに授業参観をして学び合えるように、全員が年間3回授業を公開したり、低学年、中学年、高学年で指導方法を検討できる時間（島研の時間）を設定したりして校内研究の充実を図る。

### (5) 一人一人の児童が安心して学べる環境づくり

いじめの未然防止に努めるとともに、いじめを初期の段階で発見できるように、複数の教員で児童の様子を観察したり、「心の天気」や「いじめアンケート」を行ったりする。そして、組織的に素早く対応を行うことで早期解決を図るようにする。また、不登校傾向のある児童には担任が丁寧な関りを行うとともに、保護者との連携を密にし、養護教諭、スクールカウンセラー、サポートルーム支援員と協力しながら対応していく。

児童の特性や困り感に対し、適切な支援を行えるよう、特別支援コーディネーターを低中高専科に一人ずつ配置し、適宜校内委員会を開催して共通理解を図っていく。また、市の巡回相談を積極的に活用したり、SSWや子育て世代包括支援センター「みらい」と連携を図ったりして重層的に支援を行えるようにしていく。